

STAR WARS™

MODELING ARCHIVE III

スター・ウォーズ モデリング アーカイヴ III

モデルグラフィックス編集部／編





STAR WARS™

MODELING ARCHIVE III

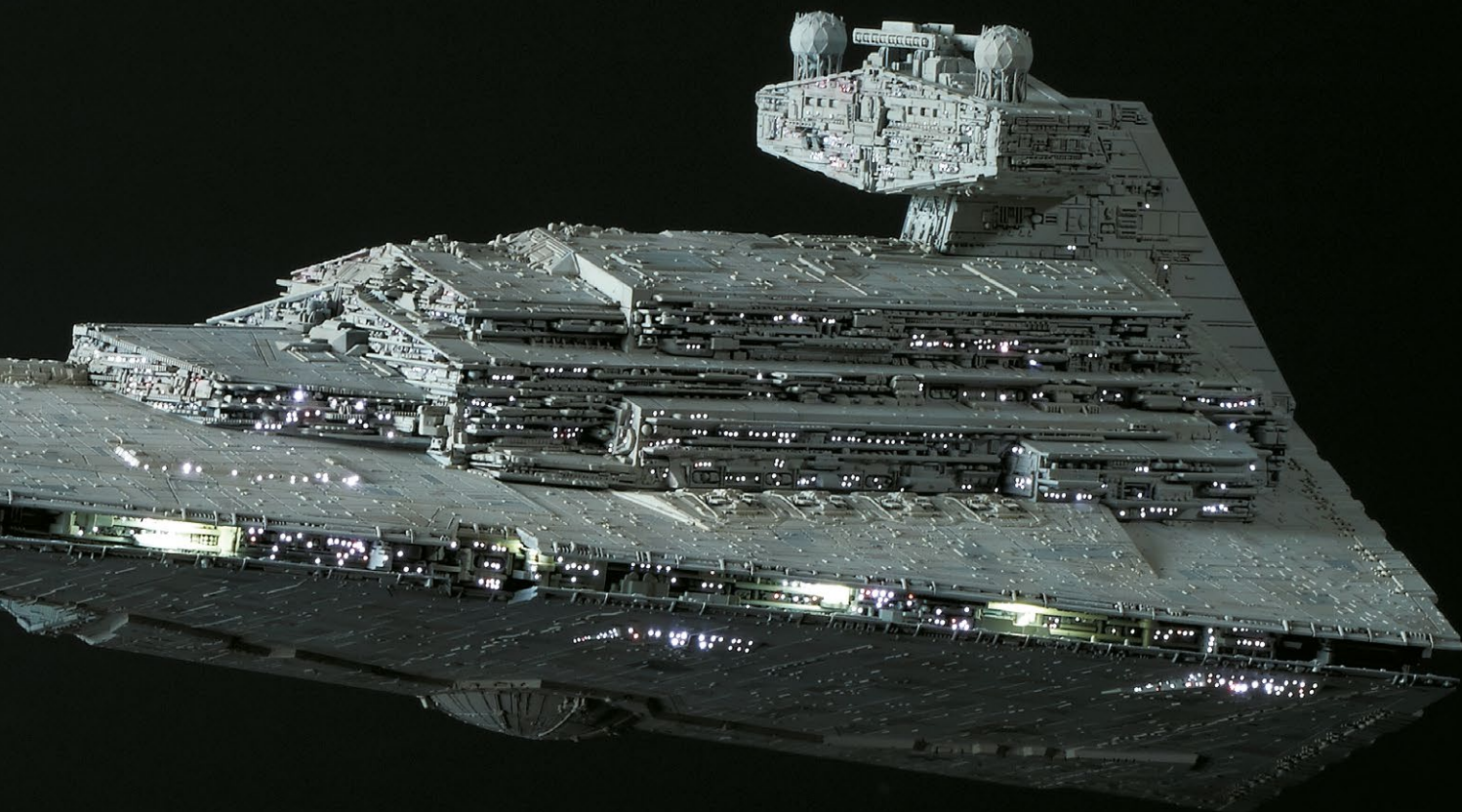
スター・ウォーズ モデリング アーカイヴⅢ

モデルグラフィックス編集部／編

大日本絵画

Xウイング・ファイター レジスタンス ブルー中隊仕様	070
(BANDAI SPIRITS 1/72) /ピコ	
R2-D2 (ロケットブースターVer.)	072
(BANDAI SPIRITS 1/12) /どろぼうひげ	
AT-M6	074
(BANDAI SPIRITS ノンスケール) /ピコ	
デス・スター攻略セット	077
(BANDAI SPIRITS 1/144) /ピコ	
R2-Q2	080
(BANDAI SPIRITS 1/12) /高橋卓也	
R2-Q5	082
(BANDAI SPIRITS 1/12) /高橋卓也	
R5-J2	084
(BANDAI SPIRITS 1/12) /高橋卓也	
R4-I9. R4-M9	086
(BANDAI SPIRITS 1/12) /高橋卓也	

R4-E1. R4-T8	088
(BANDAI SPIRITS 1/12) /北田吉宏	
成田昌隆氏静岡ホビーセンターを訪問す!!	089
成田昌隆特別対談	090
教えて! スター・デストロイヤー 撮影用モデルの秘密!	094
(文/鷺見 博)	
BANDAI SPIRITS「スター・ウォーズ」 プラモデルシリーズ開発チームインタビュー	096
大型撮影用モデル、 その内部構造と構成の謎	098
(文/鷺見 博)	
スピーダー・バイク 撮影用モデル考察	101
(文/鷺見 博)	



はじめに……

本書は、「月刊モデルグラフィックス」誌に連載された、BANDAI SPIRITS『スター・ウォーズ』プラモデルシリーズの作例作品を再編集によって、より作品の魅力に迫る単行本シリーズの第3弾です。

2019年8月、BANDAI SPIRITSは 念 願 の 1/5000 スター・デストロイヤーを発売しました。「1/5000 スター・デストロイヤー」のほかに「1/5000 スター・デストロイヤー [ライティングモデル]」と2種類準備された本製

品では、電飾ユニットと無数に開けられた穴によって、だれもが組み立て説明書どおりに組み立てるだけで劇中の撮影用モデルのように発光するという画期的な製品です。本書ではこの製品を徹底改修。撮影用モデル同様に光源から光ファイバーを使って船体側面に大量の光の点を加えた作例を大きく扱っています。ぜひ作品製作の参考にしてください。

ほかには、映画『ハン・ソロ/スター・ウォーズ・ストーリー』で新しい姿で登場した

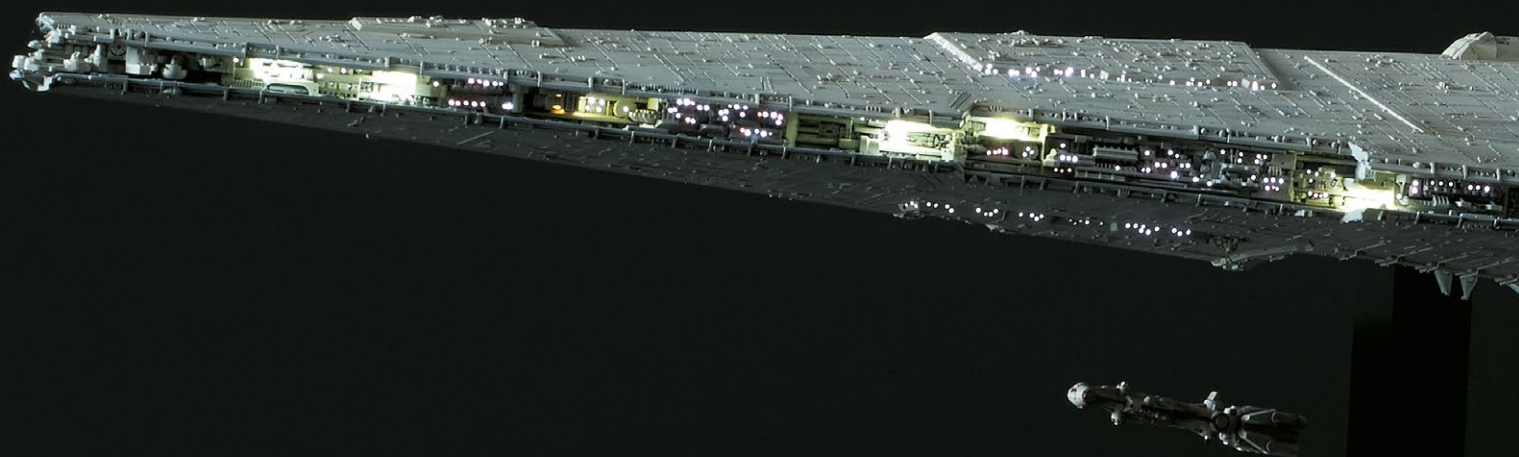
ミレニアム・ファルコンが、激闘の末、我々の知る「銀河系最速のガラクタ」になる瞬間を描いたダイオラマ作品「ミレニアム・ファルコン サヴァリーン精製所」も収録。緻密な工作と考えられた構成は見どころが満載。こちらもしっかりとページを割いています。

ほかにはこれまで誌面を飾った多数の作品をあますところなく収録しています。ぜひ『スター・ウォーズ』プラモデル製作の資料にご活用ください。

目次 table of contents

スター・デストロイヤー (『エピソード5／帝国の逆襲』) ……	004
(BANDAI SPIRITS 1/5000) / 福井政弘	
スター・デストロイヤー [クリア] (『エピソード5／帝国の逆襲』) …	014
(BANDAI SPIRITS ノンスケール) / だろぼうひげ	
スーパー・スター・デストロイヤー (『エピソード6／ジェダイの帰還』) ……	018
(BANDAI SPIRITS ノンスケール) / 桂 竜人、ピコ	
ブロッケード・ランナー (『エピソード4／新たなる希望』) ……	022
(BANDAI SPIRITS ノンスケール) / ROKUGEN	
ラーズ家のガレージ (『エピソード4／新たなる希望』) ……	026
(スクラッチビルド 1/12) / 福井政弘	
ルーク・スカイウォーカー ストームトルーパーVer. (『エピソード4／新たなる希望』) ……	030
(BANDAI SPIRITS 1/12) / 加藤茶常	
ハン・ソロ ストームトルーパーVer. (『エピソード4／新たなる希望』) ……	032
(BANDAI SPIRITS 1/12) / 加藤茶常	
デス・スター コントロールルーム (『エピソード4／新たなる希望』) ……	034
(BANDAI SPIRITS 1/72) / ピコ	
デス・スター コントロールルーム327 (『エピソード4／新たなる希望』) ……	036
(BANDAI SPIRITS 1/12) / 加藤優介	

デス・スターII (『エピソード6／ジェダイの帰還』) ……	039
(BANDAI SPIRITS ノンスケール) / だろぼうひげ	
ダース・ベイダー (『エピソード6／ジェダイの帰還』) ……	040
(BANDAI SPIRITS 1/12) / 加藤優介	
Bウイング・スターファイター (『エピソード6／ジェダイの帰還』) ……	044
(BANDAI SPIRITS 1/72) / だろぼうひげ、福井政弘	
ミレニアム・ファルコン サヴァリオン精製所 (『ハン・ソロ／スター・ウォーズ・ストーリー』) ……	048
(BANDAI SPIRITS 1/72) / ROKUGEN	
ミレニアム・ファルコン (ランド・カルリジアン Ver.) ……	055
(BANDAI SPIRITS 1/72) / 高橋卓也	
ファースト・オーダー リサージェント級スター・デストロイヤー ファイナライザー 第6ハンガー ……	058
(スクラッチビルド 1/144) / ROKUGEN	
キャプテン・ファズマ[マスクオフ] ……	065
(スクラッチビルド 1/12) / 江頭慎太郎	
Sea of Ahch-To ……	066
(スクラッチビルド 1/144) / ピコ	
ブーステッド・Xウイング・ファイター ポー専用機 ……	068
(BANDAI SPIRITS 1/72) / ピコ	



STAR WARS™ MODELING ARCHIVE

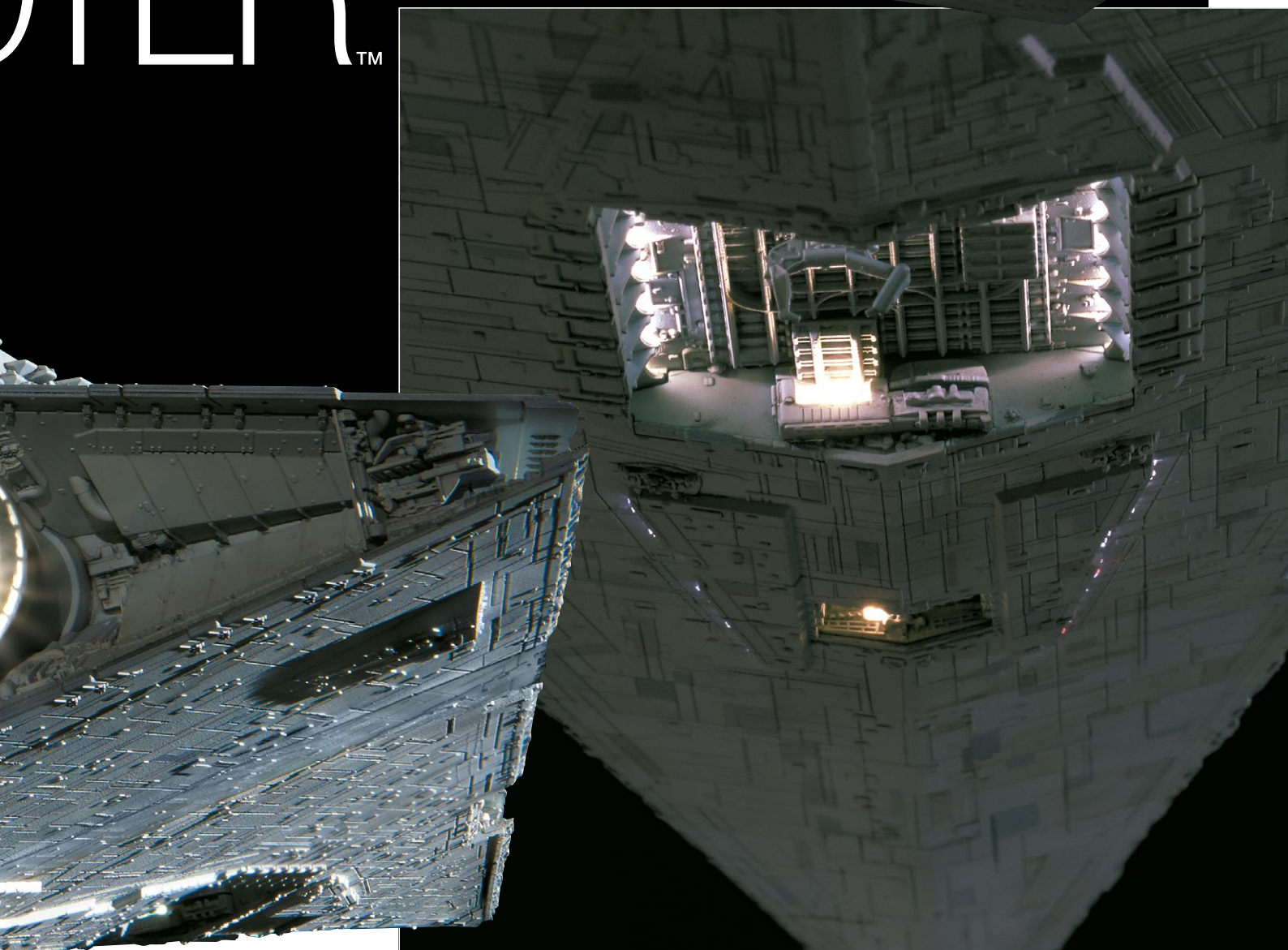
スター・ウォーズ モデリングアーカイヴ III

III

DOYER™



STAR DESTROYER
[LIGHTING MODEL]
BANDAI SPILITS 1/5000
Injection-Plastic kit
Modeled and
described by
Masahiro FUKUI



STAR WARS

IMPERIAL -class

スター・デストロイヤー (ライティングモデル)

初回生産限定版

BANDAI SPIRITS 1/5000

出典 / 『スター・ウォーズ』

インジェクションプラスチックキット

税込 1万3200円

©BANDAI SPIRITS お客様相談センター

☎0570-078-001

製作・文 / 福井政弘

STAR DESTROYER

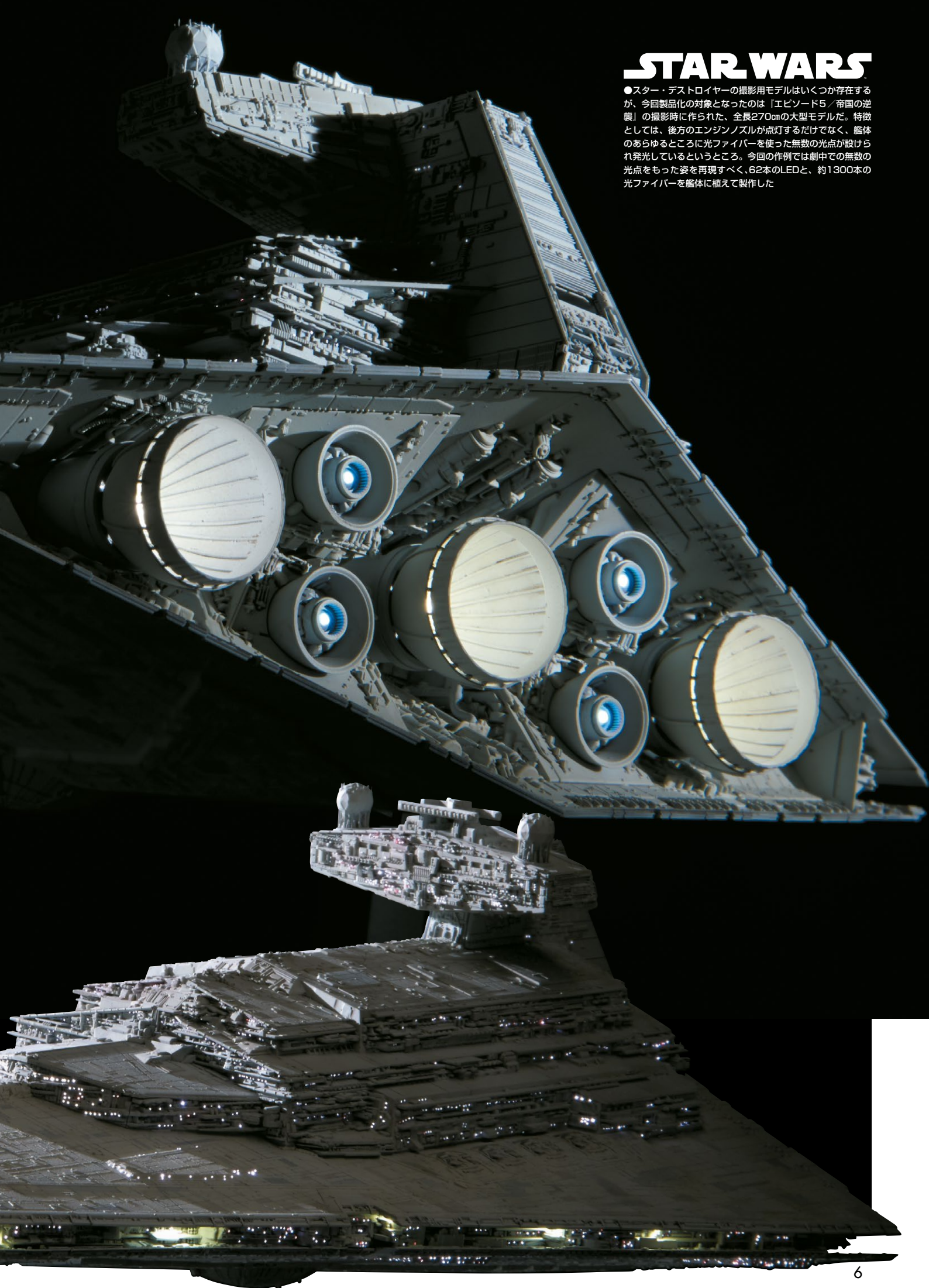
インペリアル級 スター・デストロイヤー

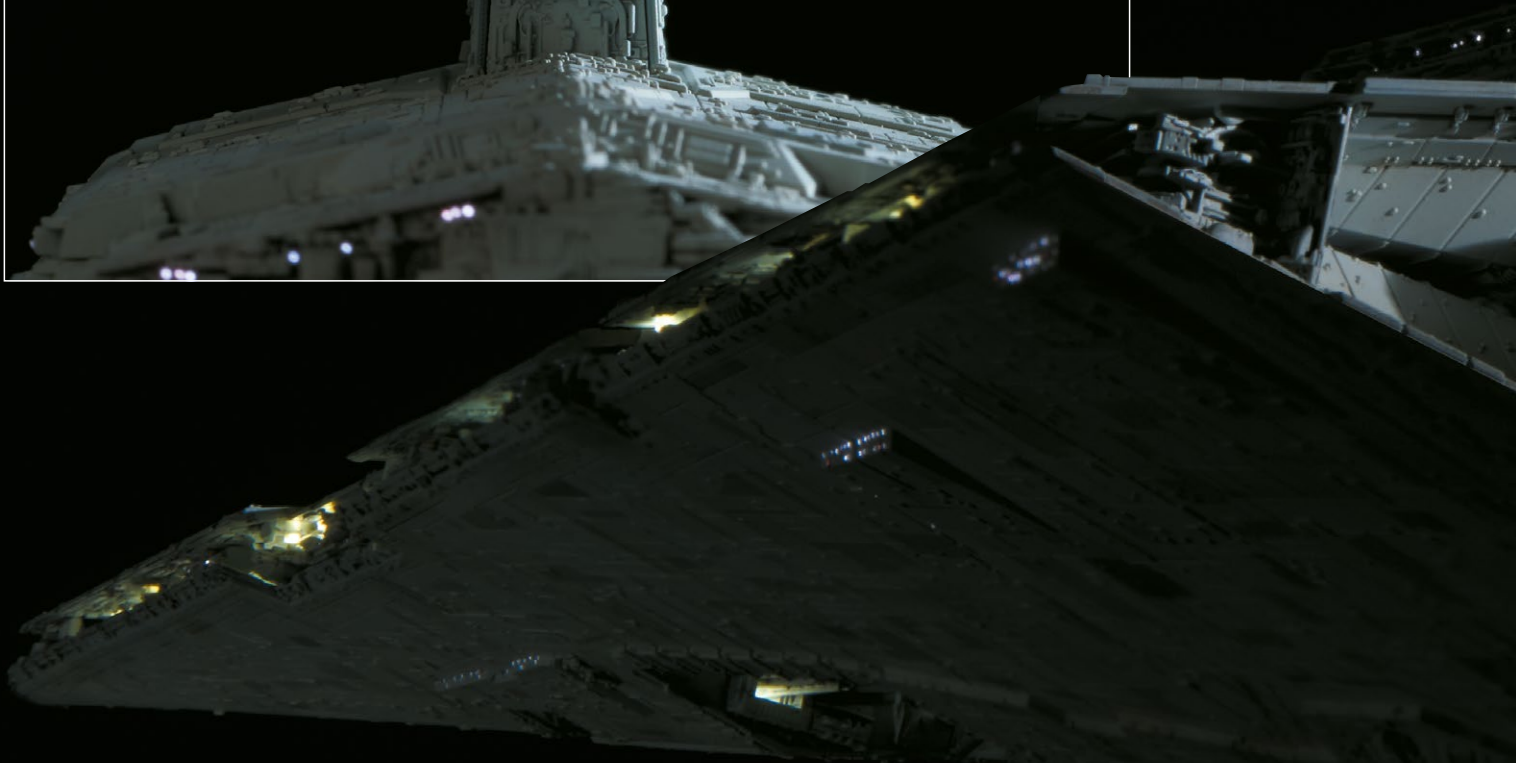
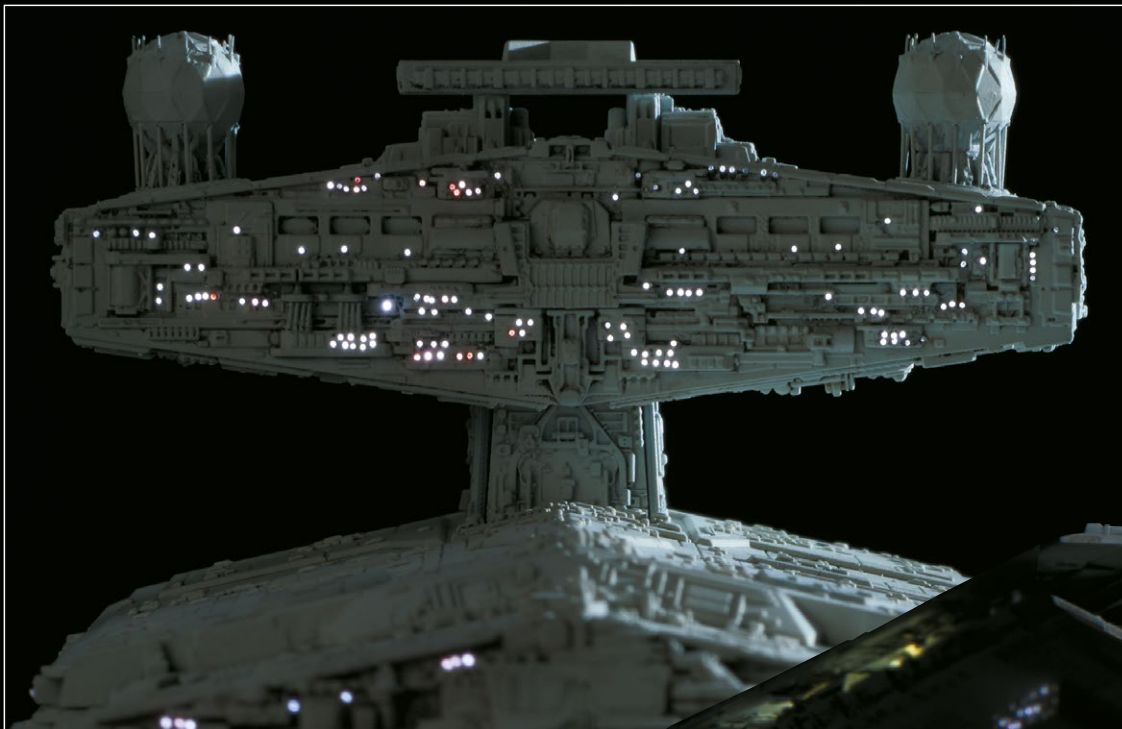
ついにBANDAI SPIRITS『スター・ウォーズ』プラモデルシリーズの真打ち登場。徹底的なリサーチを経て、完璧なスター・デストロイヤーが1/5000スケール、約30cmのサイズで製品化されました。ならばここで撮影用モデルに準じて発光箇所を大改造。撮影用モデル同様にまぶしく点灯させ、劇中のイメージを再現させてみました



STAR WARS

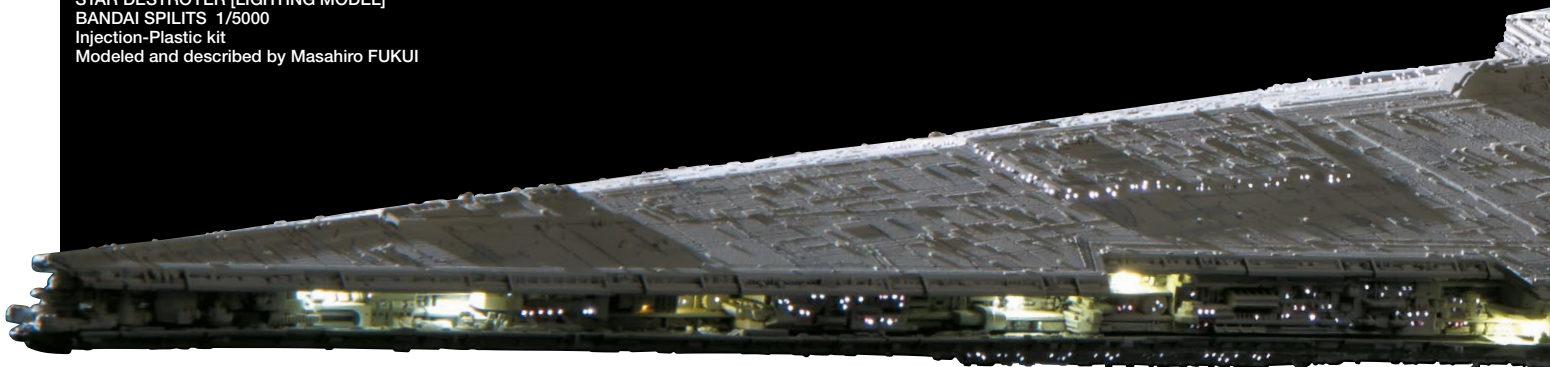
●スター・デストロイヤーの撮影用モデルはいくつか存在するが、今回製品化の対象となったのは「エピソード5／帝国の逆襲」の撮影時に作られた、全長270cmの大型モデルだ。特徴としては、後方のエンジンノズルが点灯するだけでなく、艦体のあらゆるところに光ファイバーを使った無数の光点が設けられ発光しているというところ。今回の作例では劇中での無数の光点をもった姿を再現すべく、62本のLEDと、約1300本の光ファイバーを艦体に植えて製作した





IMPERIAL-**C**lass **S**TAR **D**ESTROYER™

STAR DESTROYER [LIGHTING MODEL]
BANDAI SPILITS 1/5000
Injection-Plastic kit
Modeled and described by Masahiro FUKUI



インペリアル級 スター・デストロイヤー

●キットは電飾ユニットを搭載し、レフ板方式と呼ばれる方法で発光させるため、0.4mmの穴が艦体にあいている。それだと、細い部位に2列で穴があき発光する、という表現が無理のため、ここではいったんその穴をUVジェルで埋めて硬化、0.3mmの穴をモーターツールで開口し、光ファイバーを差し込んでいった。こうすることで薄い段差内にも2列で光点を作ることができ、より劇中のイメージに近づけることが可能となった

●実際の撮影用モデルも光点の色はさまざまで、電球色、白色、赤などが存在した。本作例では、基本的に電球色、白色のLEDのみを使用し、赤やその他の色がほしい場合は艦体から露出する光ファイバーの発光面にクリア塗料を点付けで塗布し、色を添えている。多数ある白／電球色に混じり赤が見えることで非常にアクセントとなっているのがわかる

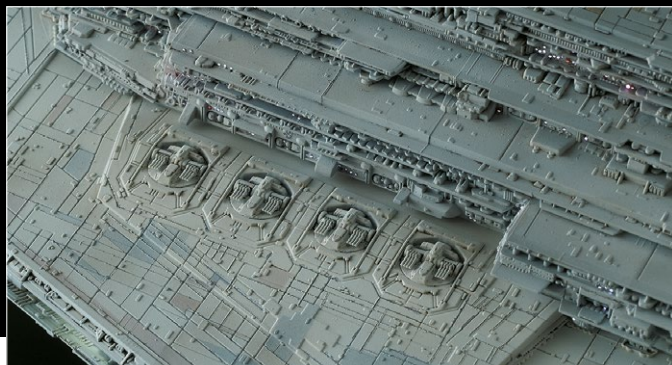
IMPERIAL-CLASS STAR DESTROYER™

STAR DESTROYER [LIGHTING MODEL]
BANDAI SPIRITS 1/5000
Injection-Plastic kit
Modeled and described by
Masahiro FUKUI

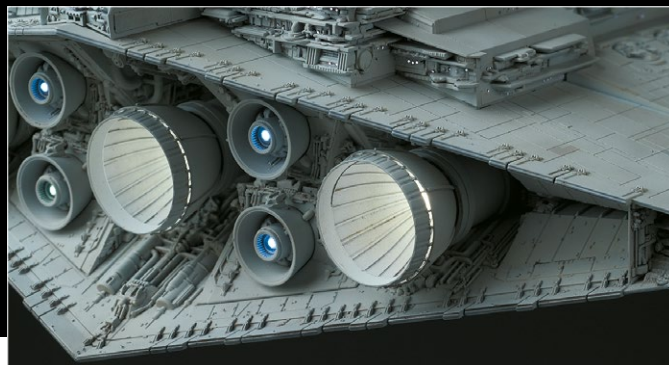
●本作品では、LEDの光源を内蔵し、光ファイバーで採光し直接点灯させるほかに、両舷側にチップLEDを複数個設置。強力な光が漏れ見えるものの、完成後は直接光源が見えない位置に設置し、間接照明となるように工夫している。この灯が光ファイバーの点灯群とあいまって、模型の巨大感を演出している

最上級キットをさらにディテールアップ!

▼少パーツでまとめられた本キットは一体成形部分が多い。機体表面のターボレーザーも一体成形されているので、いちど削り落とし、ナノ・ドレッドの4連機銃を貼り付けて立体感を出した

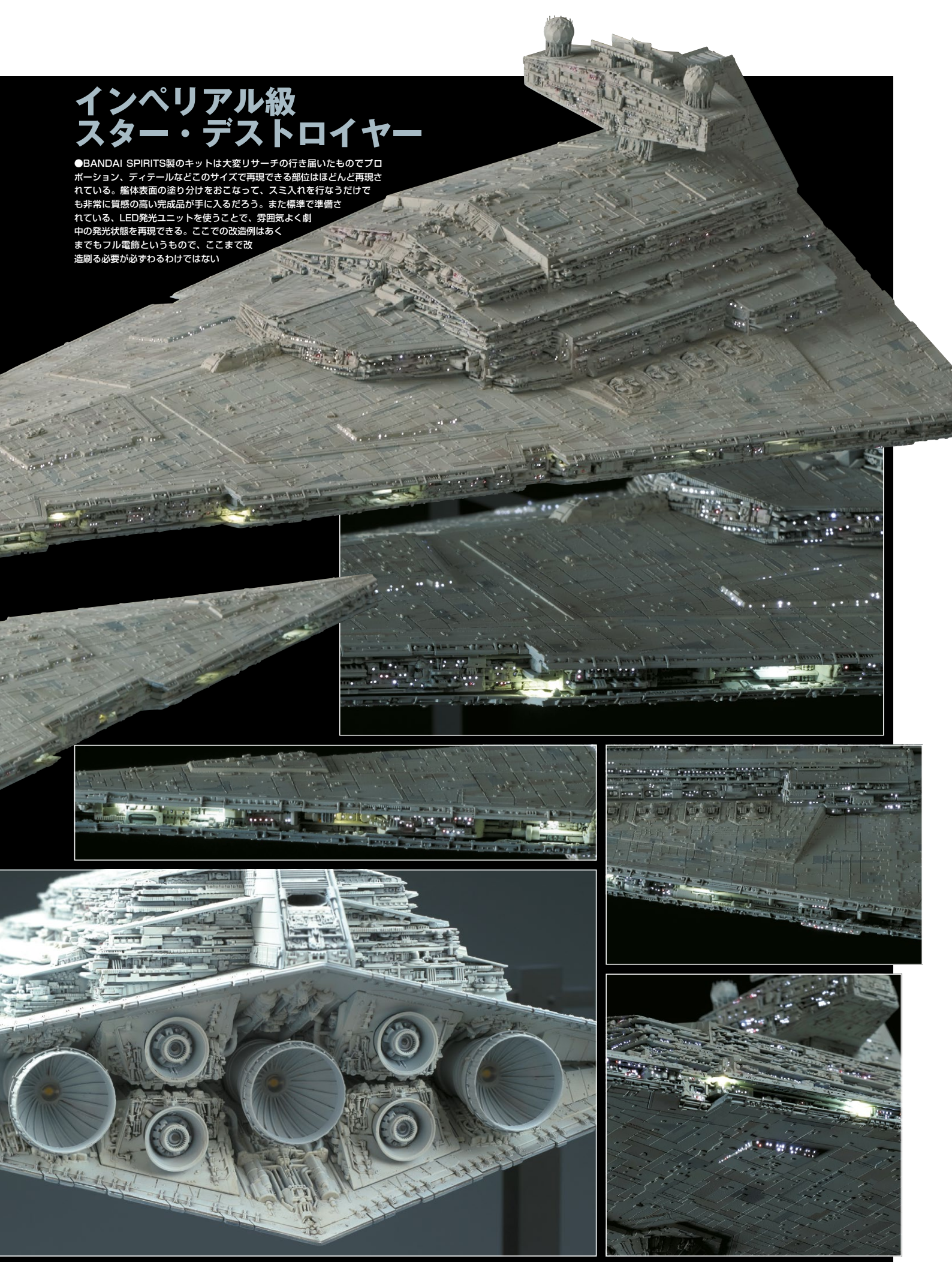


▼今回の製品では、サイズの関係でエンジンノズルのフチの隙間は再現されていない。電飾する際に目立つところなので、オーバーサイズ気味だがノズルを作り直して再現した



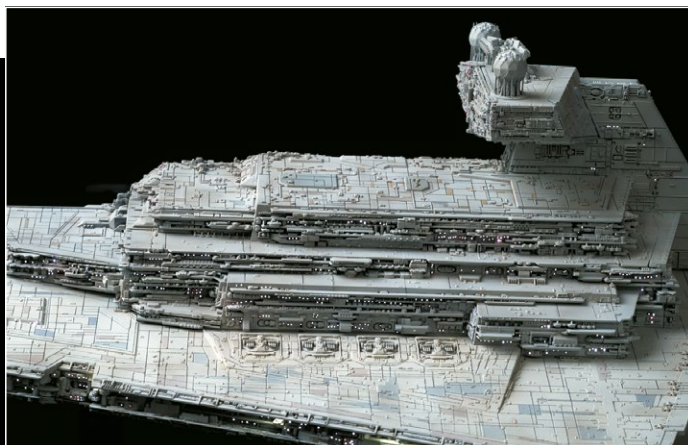
インペリアル級 スター・デストロイヤー

●BANDAI SPIRITS製のキットは大変リサーチの行き届いたものでプロ
ポーション、ディテールなどこのサイズで再現できる部位はほとんど再現さ
れている。艦体表面の塗り分けをおこなって、スミ入れを行なうだけで
も非常に質感の高い完成品が手に入るだろう。また標準で準備さ
れている、LED発光ユニットを使うことで、雰囲気よく劇
中の発光状態を再現できる。ここでの改造例はあく
までもフル電飾というもので、ここまで改
造刷る必要が必ずわるわけではない

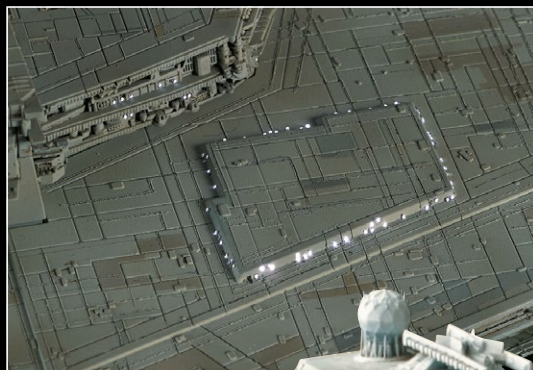




▲パーツの組み合わせの都合上、どうしても接着線が出てしまうシールドジェネレーター部（球体部分）は、支柱や天面の突起をすべて取り払い、真ちゅう線で再現している



▲艦体は特徴的なスジ彫りが少ないと感じ、資料をもとに省略されたスジ彫りを追加した。浅く、細く、キレイに彫ることで艦上面に複雑な模様が増え、情報を増すことに成功している

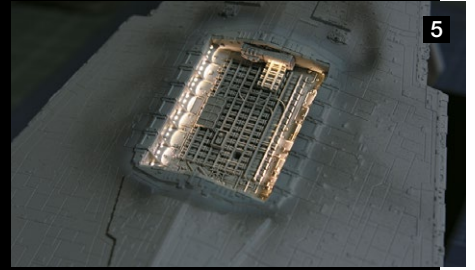
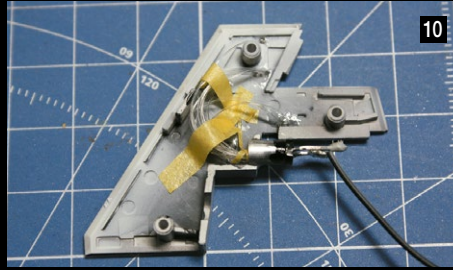
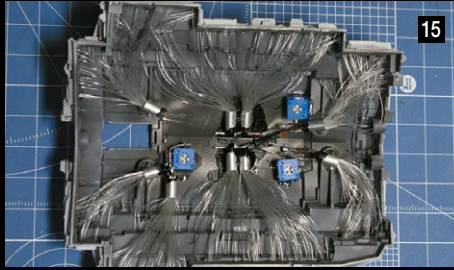
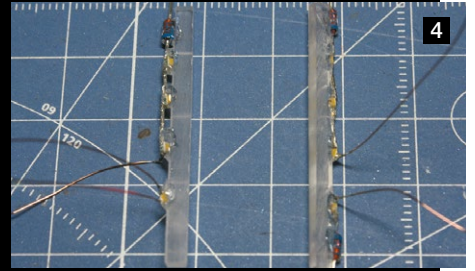
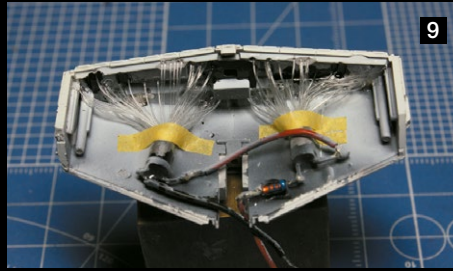
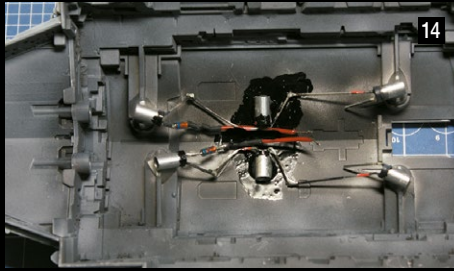
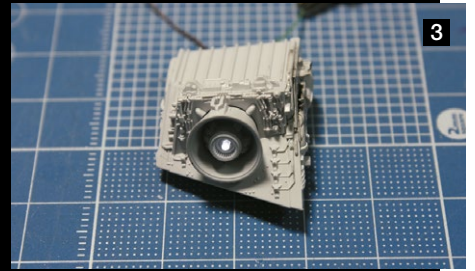
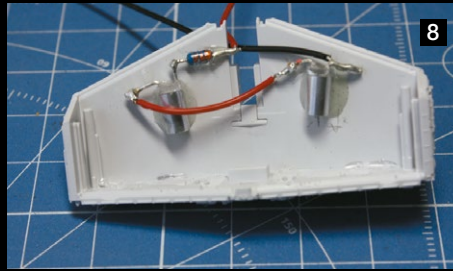
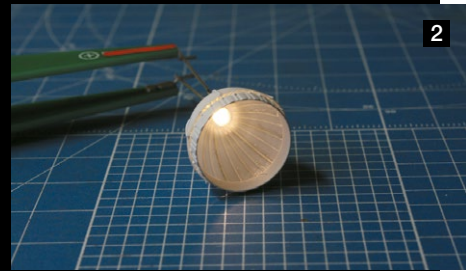
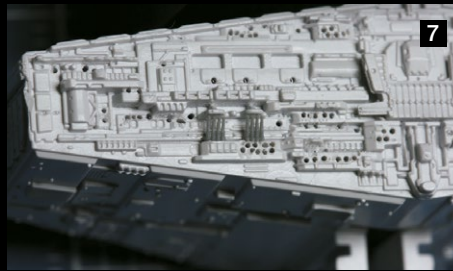
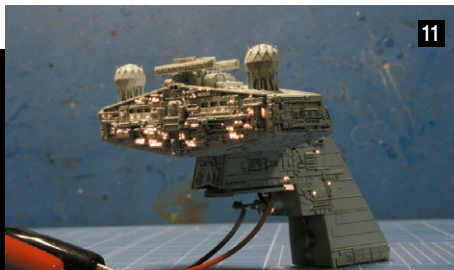


◀船体上面の構造体も側面が点灯しているが、キットでは穴が一列なのに対し、作例では撮影用モデル同様に複数列になるように穴の位置を調整し、開口し直した



ついに待ちに待ったBANDAI SPIRITS製の究極のスター・デストロイヤーが発売となりました。徹底的な撮影用モデルのリサーチによるキットはまさに決定版で通常版、ライティングモデルとも素直に組み立てるだけで誰でも手軽に究極のスター・デストロイヤーを手にすることが出来ます。とくにライティングモデルは電飾初体験の方でも光ファイバーを使用せずにLED12個で効率よく全体を光らせることができる驚きのキットです。今回は細部のディテールアップと、迫力のある輝きを得られるようLEDを62個と1000本以上の光ファイバーを内蔵させて少しでも撮影用モデルの印象に近づくように製作しました。

プロポーション、ディテールはいうことなしの再現度の高さですが全長270cmの撮影用モデルを32cmに凝縮しているのでもうしても省略されている部分があります。3個あるエンジンのメインノズルD29は2段になっているノズルの間に隙間がありそこから光が漏れるのが印象的ですので、オーバースケールを承知のうえで再現します。キットのパーツの後端のみを切り取って使用、ノズル前半はキットのパーツの凸モールドを削り取ったものを原型として0・5mmプラ版をヒートプレス、それに0・3mmプラ材で凸モールドを再現しつつキットのパーツを組み合わせることで隙間を再現しました。ここに3mm砲弾型LEDの電球色の先端を削ったもの（光を綺麗に拡散させるため）を内蔵。これでノズルの隙間から光が漏れて一気に巨大感が出きます。4つの中型ノズルは白い光です。3mm白色LEDを内蔵、1mm光ファイバーでノズルに合ったサイズにします。次に船体下面のドッキングベイですが、このデキは素晴らしい間接照明が再現できるようなパーツ割りされています。隙間が狭いので1mm透明プラ板の側面にチップLED1608を両脇に各4個ずつ内蔵させ間接照明としました。回廊の奥側にもLED1個を内蔵し計9個で電飾するとパワフルに光るようになります。船体全体にある窓ですが、キットの穴でも足りないくらい無数にあります。ここを派手



112まずキットのノズルの後端のみを切り取る。残った前半の凸モールドを削り取って原形としバキュームフォームした。LEDは光をキレイに拡散させるため3mm砲弾型LEDの電球色の先端を削った。3後方のサブエンジンノズルには砲弾型3mmLEDを直接仕込む。45下面のペイはチップLEDを4つ透明パーツに接着したもの光源としてふたつ製作。これをペイの左右から接着して下面からのぞいたときに間接照明となるようにした。6船体を開いている無数の穴は大きすぎ、かつ数が少ないのでまずは最初に裏側からUVジェルを塗布しUVランプで硬化させる。7UVジェルが硬化したら、表面からモーターツールで

0.3mmの穴を資料を参考に開け直す。ついでに4連機銃のようなディテールが省略されているので、ナノ・ドレットからパーツを流用してディテールアップ。このあとすぐに塗装する。8艦橋を点灯させるのに3mm径の砲弾型LEDを二本、艦橋内部に設置する。LED2個にCRD(定電流ダイオード)を繋いだ回路を作りアルミパイプを被せて光源とする。9開口した穴に0.25mmの光ファイバーを差して瞬間接着剤で点灯固定し、反対側をアルミパイプに差し込んで採光する。表面に開けた穴すべてに光ファイバーを設置する。10艦橋の支柱側面にも点灯部位があるので、アルミパイプに差したLEDを設置、ここから光フ

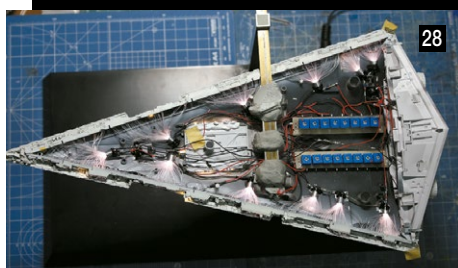
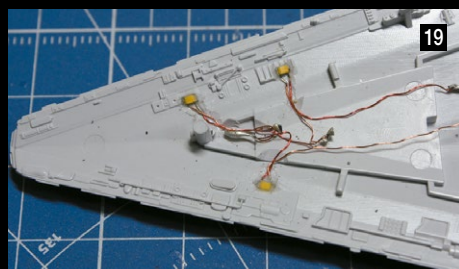
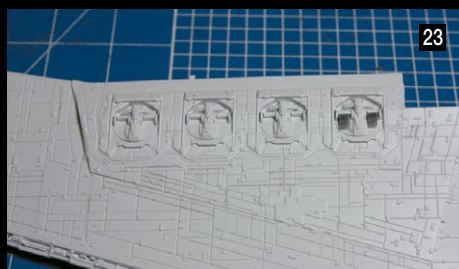
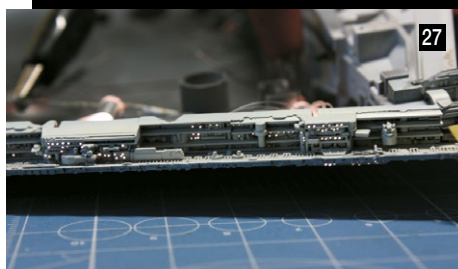
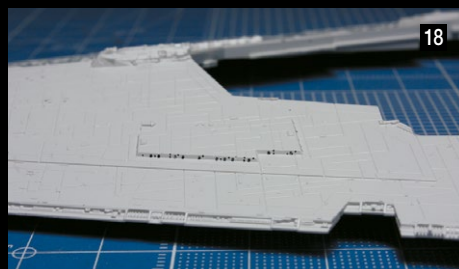
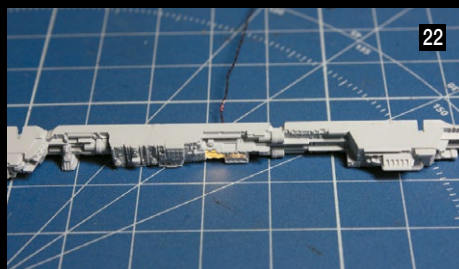
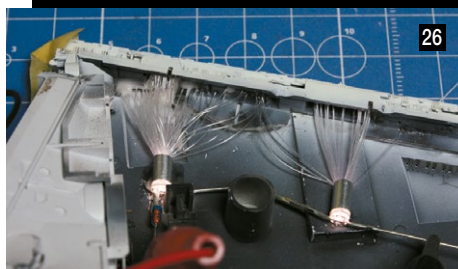
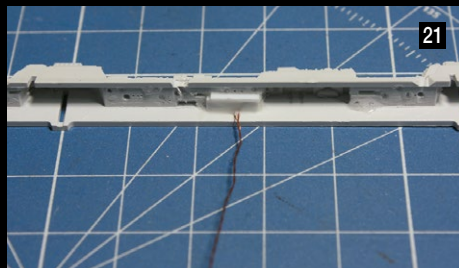
ァイバーに供光する。11艦橋部分の光ファイバーの設置が終わったらテスト点灯。この時点で150本近い光ファイバーが使われた。12艦橋基部も電飾するが、まずは遮光塗装をし、表面の塗装をすませる。13塗装が終わったら、艦橋基部にも採光用のLEDをアルミパイプに入れて設置する。ここではまずは6本のLEDに2本のCRDを設置している。14同様の方法によって、艦橋下の艦上構造体は最終的に15個のLEDの光源を設置、全部で約800本近い光ファイバーが使用された。すべて一本ずつ手作業で設置されている。青く見えるのは、光量を調整できるように設置した半固定抵抗。

に光らせるにはオーバースケールとはいえ0・25mm光ファイバーが適切と考え、すべて作り直しました。膨大な作業となりますので、チャレンジする方は覚悟が必要ですが、やると決めたらまずはすべての穴をUVクリアジェルで埋めてしまい、改めて0・3mmの穴をモーターツールで開口します。フットスイッチを使うと効率よく開口できます。基本的な構成は3mm砲弾型LEDの電球色に内径3mmのアルミパイプを組み合わせ、そこに0・25mmの光ファイバーを差し込んでいくの繰り返しです。光ファイバーは瞬間接着剤を少量使って留めますが、接着の量が多いとファイバーが侵されて光量が落ちたり最悪折れてしまうので注意が必要です。固定が難しい部分には光ファイバーを侵さないスジボリ堂の光硬化パテを使って補強しています。それと重要なのは光ファイバーを組み込む工程です。発光部分の凹凸が激しいので塗装前にファイバーを組み込んで塗装後に先端を切り揃えられない部分が多数あります。そこで今回は先にパーツのスジ彫り、塗装、スミ入れまで済ませた上で、光ファイバーを組み込むという順番にしました。大光ファイバー50、60本位でパイプ内がパンパンになりますので、それを目安にLEDを設置していきます。艦橋だけでLED15個を使用しました。撮影時に窓の光量を調整できるように半固定抵抗(青い四角いパーツ)を仕込んであります。本体から給電するのでソケットを組み込んでおきます。船体ですが給電のためのベースをどうするか悩ましいところです。下面のドッキングペイを見せることを考えると船体右側面から支えるのが望ましいです。そこで金属角パイプをハンダ付けた丈夫な支柱を制作、右側面から船体の奥深くまで差し込むようにしました。船体の電飾でポイントとなるのは側面トレンチ内に存在する間接照明です。これはチップLEDで18箇所程度、トレンチの屋根裏などの目立たない部分に設置しました。この間接照明があると一気にスター・デストロイヤーらしさが増します。あとはひたすら窓に光ファイバーをさしていきま

す。窓に光ファイバーをさしていきま

す。窓に光ファイバーをさしていきま

最上級キットを さらにディテールアップ!



図艦橋ならびに艦橋下構造体の点灯テスト。光が強すぎる場合は内部の青い抵抗で調整する。⑫船体は横から支柱を差す方式で固定。キットの一部を切り取り、差し込めるように改造する。図写真をみると下面の突起部側面では光が二列になっているのでそれも再現する。⑬図撮影用モデルでは、両舷のトレンチとよばれる溝状の部位には光ファイバーだけでなく間接照明が設置されている。これを再現するために、こういった奥まった位置にチップLEDを左右に配置した。そのままでは設置するスペースがないので船体の内側を若干掘り込んで埋めるように設置していく。全部で15個のチップLEDを設置した。⑭図船体側

面のトレンチ部分の大きい光源のなかには、一部が間接照明となっている箇所がある。そういった場所では、パーツを開口してから裏側をプラ板でボックス化、うしろに光が漏れないようにしてチップLEDを設置する。図表面のターボレーザは一体成形なのでいちど削り取り、ファインモールドのナノ・ドレットシリーズ「九三式13mm機銃セット」を貼り付けることで立体感を出した。図船体の塗装は最初に改造箇所をマスキングしてからモデルカステンの遮光ブラックPROを使って遮光。つぎに船体色を塗装していく。図船体の基本塗装が済んだら船体の各部をマスキングし、パネルの形状ごとに塗り分ける。図船体

の塗装が終わったら、本体の光ファイバーもセットする。アルミパイプをかぶせて遮光したLEDをセットし、光ファイバーを差し込んで採光する。⑮トレンチ部分を点灯させた状態。キットの素の状態に比べ、発光状態が大幅にふえているのがわかる。各工程はすべて点灯テストを繰り返しながら進めるのが鉄則だ。図左右のトレンチ部分の発光状態が完成した様子。船体は横から支柱を差す方式で固定。回路をまとめ、この支流から給電する。支柱の受けはがっちり固定する必要があるため、エポキシパテを多めに使って固定する。青く見える部分が船体の光量を調整する半固定抵抗

令和元年に日本に住んでいるからできる楽しみ方と言えるでしょう。皆さんもぜひ最高の贅沢を楽しんでください!

艦橋上部に2個あるシールドジェネレーターですが上下2分割で支柱に分割線が出ています。これは0・3mmの真ちゅう線で作りました。上部のアンテナは0・1mmの洋白線に変え、艦橋の両側面に16基あるターボレーザ砲ですが船体と一体成型なのが気になりました。そこで砲身部分のみを削り取り、ナノ・ドレッドの1/700の13mm4連装機銃の銃身に差し替え砲身が船体から浮いているようにしました。

撮影用モデルはスジ彫りとペンによる書き込みが混在しており無数のパネルラインが巨大感を演出しています。ハセガワのラインエングレーバー細彫用でスジ彫りを追加しました。ただ通常のキットのように事前にスジ彫りするだけではなく、塗装完了後に軽くスジ彫りして白い塗膜を剥がして下地のサフを露出させ、細く繊細なスジ彫りとなるよう工夫しました。

電飾との兼ね合いでパーツごとに先に塗装を済ませます。新発売の遮光ブラックNEOで遮光処理し、その後サーフェイサーを塗ってからパーチャロンカラーのウォームホワイトを重ねます。スケール感を出すためにパネルラインに沿って薄いブルー系グレー、茶系グレーによる細かい塗り分けがありますのでマスキングして塗装して再現しました。この塗り分けは面倒ですがかなり効果があります。塗り分け後、スジ彫りを追加。凹部にはスミイレせず軽いスジ彫りでライン浮き立たせ、凸部のみ薄くスミイレしました。そのあとスモークグレーでうすうす汚れていれて、最後につや消しトップコートで仕上げます。

最高の素材にだけに、手の入れ方によって様々に表情を変えてくれるキットです。まずは1個、素直に素組みで作ってみるのがオススメです。その上で、満足できなかった場合には気になった部分をディテールアップするなり、電飾部分をパワーアップするなり自分好みに2個目を楽しむのが健全と感じました。

令和元年に日本に住んでいるからできる楽しみ方と言えるでしょう。皆さんもぜひ最高の贅沢を楽しんでください!



9784499232814



1920076039003

ISBN978-4-499-23281-4 C0076 ¥3900E

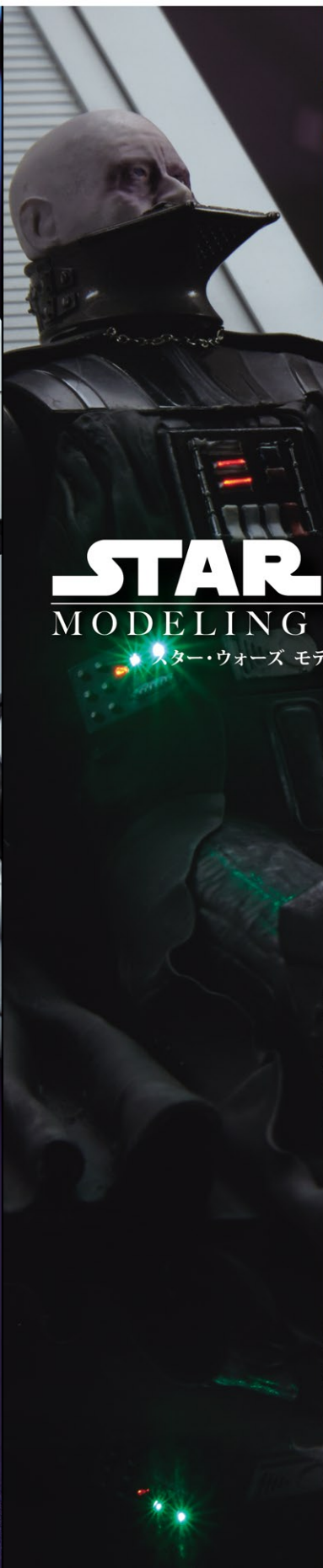
定価 (本体3,900円+税)

発行 株式会社 うさぎ出版

発売 株式会社 大日本絵画



© & ™ 2019 Lucasfilm Ltd.



STAR WARS

MODELING ARCHIVE III

スター・ウォーズ モデリングアーカイブⅢ